

項目	中長期経営目標	短期経営目標	短期経営目標の達成状況	自己評価	改善方策	関係者評価講評	関係者評価
知	主体的に様々な環境に好奇心や探求心をもち力の育成	○主体的な遊びを保障する教育・保育の実施 ・各年齢の指導計画に基づき見通しをもち、育ちに応じてふさわしい環境や素材、用具の工夫を行い、年齢を意識し発達に必要な経験が得られる保育の実践 ・教材に関する知識を深める	・発達や個々の育ちを意識しながら教材の工夫を行う。興味をもったり、触れて楽しんだり、様々な経験ができるように季節に応じて用具、素材等準備したことで、主体的に活動できる姿が見られだしている。年長児は、自分達で遊びを進められるようになっていいる。 ・年齢に応じて子どもが扱いやすい素材や用具を用意したことで自分なりに表現して遊ぶことを楽しんでいる。しかし、これまでの経験、興味など個人差がある為考慮していく必要がある。	A	・年齢や興味、これまでの経験など考慮しながら環境や素材・用具の工夫を行う。 ・職員会を利用して、教材のよさ、マイナス面、改善点などを共有し多様性について知識を深める。	・子ども達が主体的に活動できるような環境設定を先生方が考え、発達を促す教材選びを工夫しながら職員で共有・連携を図っている。 ・これまでの取組を継続しながら、子どもたちの興味関心をさらに引き出す工夫をしていただきたい。	A
		○自己課題に取り組み、職員の資質向上をはかる ・幼児理解に努め、一人一人の興味・関心に基づき保育環境の工夫を行う ・保育を振り返り、反省・評価を重ね、週日案の改善を行う ・園内研修の充実―指導計画を作成し、職員間で協議する。発達を見通した保育に繋がる具体的な取り組みを探る	・一人一人の興味関心から必要な援助、環境を探り工夫しながら保育するようにした。 ・日々の保育の振り返りや評価・反省をしてきたが改善を行うための手立てには難しさを感じる。 ・園内研修では、幼児理解に視点を置き、協議を深めることが出来た。子どもを多面的に捉えることで今の姿や育ちを知り、学んだことを保育に取り入れることができた。環境の改善や保育者の振り返り、指導計画の改善に繋げることができた。	B	・園内研修を計画的に行う。 ・各年齢の発達を学び、見通しをもち保育に繋げていく。 ・日々の保育の振り返りの中で気づいた育ちを書くなど言語化することを意識し、幼児理解に努め一人一人にあった配慮や援助を考えていく。	・幼児理解に視点を置き、発達段階の異なる様々な子ども達を多面的に捉え、できる限りの改善、協議をしながら保育に取り入れようとする姿が感じられる。 ・先生方の向上心が保育の質の改善につながる。今後も研修を計画的に行いながら幼児理解を深めていただきたい。	B
		○聞く・話す楽しさを感じるための援助・環境構成の工夫 ・乳幼児一人一人の言葉の発達を捉え、年齢に応じた取り組みを行う ・興味・関心をもち聞きたくなるような保育者の工夫 ・生活の中で、聞く、話す楽しさを感じるための遊びの工夫 (心を動かされる体験を積み重ねる・自分の気持ちを表現する楽しさを味わう環境作り)	・遊びや生活の様々な場面で言葉に触れ、言葉を獲得していけるよう環境を整え年齢に応じたの取り組みを行う。思いや感じたことなどを言葉や態度で表現している姿をうけとめ、言葉にして返していくことで伝え合う喜び、楽しさ、表現するおもしろさを感じることができるに関わってきた。しかし、語彙の少なさや物の名前、表現の仕方がわからない子どもが多くなっている現状がある。 ・年長児は行事やしたい活動について話し合う機会を作り、決めたことが実現できるようにしたことで自分なりの言葉で表現したり、興味をもって聞くようになってきている。	B	・子どもの言葉の発達の状況を把握する。年齢に応じて遊びや関わり方を工夫し語彙を増やしていく。 ・環境の工夫や言葉を引き出すための援助の工夫を行う。	・語彙力の低下は、日常から家庭でも言語化することを意識し、コミュニケーションを図らなければいけないと実感している。先生方が園でも意識的に声がけをしてくださっていることを知り、ありがたい。今後も環境の工夫や言葉を引き出すための支援を継続していただきたい。 ・子どもとかかわる先生方の言葉がけの内容が大切になってくる。発達段階に応じて、温かく優しい、わかりやすい言葉を選びながら接していただきたい。	B
	豊かな心と関わる力の育成	○絵本好きの子どもにする取り組み ・絵本に興味関心をもち関われるよう年齢や育ち、季節に合った絵本を選ぶなど環境を整える ・絵本の貸し出しやお便りを通して、保護者に読み聞かせの大切さを伝える	・絵本に興味関心をもって見たくなるようにすぐに手に取れるような置き方の工夫を行ったり、育ちや季節に合った絵本を選んで読むことで読み聞かせを楽しみにしている子どもが多い。しかし、気が散りやすい子どもがいるため見やすい環境の工夫が必要である。 ・保護者に絵本の大切さを知らせているが読み聞かせを行っていない家庭が固定化している。	B	・子供の興味や発達に適した絵本の読み聞かせをする。 ・子どもから保護者に働きかけることで読み聞かせの習慣化につなげる。 ・大切さ・効果については職員が知識を深め、保護者が実践したくなるような内容を発信していく。	・家庭での読み聞かせの大切さを痛感する。園だけではなく、読書を通じて家庭でも会話が広がり、子どもの想像力も養われていく。今後も家庭へ発信をしながら取組を推進していただきたい。	B
		○豊かな心を育む保育の実施 ・友達との関わりを深め、共感や思いやりの気持ちを育む ・一人一人が十分に自己を発揮し、友達と多様な関りや体験ができるよう環境の工夫を行う ○道徳性・規範意識の育成 ・生活に中でしてよいこと、悪いことや決まりの大切さに気付き守ろうとするなど、生活のために必要な態度が身に付くよう援助する。	・異年齢児との関わりが増えたことで、年下の友達に思いやりの気持ちをもち関わる姿が見られた。 ・一人一人の姿を捉え保育することや個々のペースを大事にし、やってみたくなるような環境を工夫してきたことで自己発揮につながっている。その中で、友達に認められる経験ができていいる。 ・友達との関わりが生まれやすい遊びを取り入れたり、遊びの数を減らすなど環境の工夫を行った。 ・様々なルールについては家庭とのずれを感じる。	B	・それぞれの年齢で経験して欲しいことができるよう環境の工夫を行う。 ・生活していくために必要なルールについては、子どもの姿を通して保護者に伝えていく必要がある。	・異年齢のかかわりは互いの刺激になりよい取組である。かかわりの中で見て学び、試行錯誤する中で、発達を促す思考につながるので、今後も継続した取組をお願いしたい。 ・保護者にも、一定のルールは理解していただく必要があるため、伝え方を工夫しながら今後も発信していただきたい。	B
		○基本的な生活習慣の形成 ・定期的にアンケート調査を行う。結果を基に各家庭の取り組みや子育てに役立つ情報を提供する ・園生活の中での取り組み ・実態を探り保護者と情報共有しながら個々に応じて働きかける ・お便りや懇談会を活用して、生活習慣の大切さを発信する	・4回の生活習慣アンケートを実施したことで家庭の様子を把握することが出来た。個々に応じて情報を提供するが改善にむずびつけないことができない。 ・園での生活習慣が身につくように年齢に応じて取り組んでいる。個々のペースに合わせて丁寧に関わり自分で出来ることが増えてきている。生活習慣については、家庭と連携しながら進めている。 ・アンケート結果から、食事面での偏りがあり栄養についても伝えていく必要性を感じる。	B	・アンケートの中から家庭の背景を探り、保護者の困り感や、今知りたい情報、やってみたいと思う内容を情報提供する。 ・食に関する絵本や紙芝居を見る機会を作る。 ・保護者に、食育に関する情報提供を行う。	・アンケートの結果を検証しながら、みえてきた課題や保護者のニーズに合わせた情報を提供したり、保護者の気持ちに寄り添ったかかわりを今後もお願いしたい。さらなる家庭との連携に努めていただきたい。	B

		○体力向上と運動習慣の定着を図る ・体を動かす楽しさや心地よさが実感できるよう、発達段階に応じて多様な動きに着目し体力向上を図る ○食育活動 ・乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、各年齢を通して食べる事が楽しめるよう計画する。	・運動教室やクラスで体を動かす遊びを取り入れることや、色々な体の動かし方を繰り返し楽しんできたことが自信となり、体を動かすことが楽しくなっている。又、体力向上にも繋がったと感じる。しかし、自由遊びの中では、体を動かす遊びに参加しようとしていない子どもの姿がある。 ・食事のマナー等を知らせ身につくように取り組んできた。食に関心が持てるように、4・5歳児クラスが 夏・冬野菜を育てる。生長を期待したり、様子を見たりして大事にする姿があった。収穫したものは調理してもらい食べる経験ができた。	A	・年齢や季節を考慮しながら体を使った遊びを計画的に保育 に取り入れる。その際には、発達に応じて必要な動きを取り入れる。	・運動教室はさらに回数を増やし、体力向上につなげていただきたい。また、日常の遊びの中でもリズム運動や、運動教室で学んだ動きを取り入れる工夫をしていただきたい。 ・運動教室の取組による体力向上、野菜を育てる等の食育への取組が継続してなされていることがよい。幼児期から日常的に体を動かすことは、心身の発達に効果的である。今後もさらなる充実に努めていただきたい。	A
連携・協働	学校・家庭・地域との連携	○学校をはじめ、家庭、地域との連携した活動を実施する ・保育内容の理解を促す情報発信の工夫を行う	・園での生活や遊びの様子を送迎時やお便り等で知らせる。又、言葉や文章だけでは伝わりづらい内容を写真と共に見られるようお便りの工夫を行った事で、保育の場面をイメージしやすく、親子のやりとりに繋がっているのではないかと感じる。少数ではあるが、子どもの成長を感じてくれる保護者もいる。しかし、地域への情報発信が不十分だったと感じている。	B	・効果的な発信の方法について今後も探っていく必要がある ・保護者に伝えるための発信の仕方について学ぶ。	・園での様子がわかる情報発信は保護者の安心感につながり、園での取組への協力、理解にもつながる。今後も発信方法を工夫しながら保護者との連携を図っていただきたい。 ・園だよりの内容から詳しい様子が伝わってきて、工夫されていると感じる。子どもの姿が写真が掲載されており、どんな保育を日々してくれているかがわかり、お便りを読むのが楽しみである。 ・地域とのかかわり、連携を構築する取組は今後検討していただきたい。	B
	就学前教育の充実	○特別支援教育の実施 ・個別の指導計画の作成と活用、専門機関との連携を図り、支援の充実を図る ・園小中連絡会や園小交流活動に参加し連携を深める ・小学校への接続が円滑に行われるようにするために情報を提供し幼児の学びと育ちを繋ぐ ○親育ち支援の充実 ・家庭支援が必要な園児の記録をとり、職員全体で共有する ・保護者との信頼関係を築き、家庭の実状に合わせ効果的な支援を行う	・専門機関の計画書を参考にしたり、特別支援研修会で得た情報を取り入れ、個々に応じての支援が行えるように援助や環境の工夫を行うことが出来た。よかった支援方法については次年度の担任に引き継ぐなど職員間での共有を行う。 ・園小交流活動では、計画書の作成や事後の振り返りを行う事でお互いの理解に繋がっている ・家庭支援が必要な園児について、必要に応じて記録をとり職員間で情報共有に努めているが、効果的な支援には難しさがあり、一進一退である。	B	・保護者との日常的な関わりを大切にし、家庭の状況を探っていく。保護者に寄り添い、思いを聞く中で今の困り感を探りながら共に考えていく。子どもの成長や改善が見られた時には、喜びを分かち合うなど、保護者と共有する姿勢をもつ。	・園小交流活動は、小さな自治体ならではの柔軟さがあり、子どもも保護者も安心感につながる取組である。これからも継続していただきたい。	B
	安全教育、安全管理の充実	○危機管理マニュアルに基づきながら安全な対応に努める。又、あらゆる場面を想定した訓練を通して課題を明確にし改善に努める ○月 1 回の施設の安全連兼を実施する ○安全に生活できる環境の工夫	・予告なしの訓練を行う事で新たな気づきや反省点があり、課題について全体で共有し改善に繋げる ・警察や消防に依頼し訓練することで、職員の危機感を持つことにも繋がっている。 ・日常の中でも安全に生活が出来るように環境の工夫を行ったり、子どもと共に考える機会をもつことが出来た。又、ヒヤリハットに記入し公表することで安全面での再確認につながっている。	B	・あらゆる場面を想定しての訓練を行い評価、反省を行う。 ・具体的な対策を考え、職員間の連携を図る。 ・研修会等に参加し、安全教育についての意識を高め、新しい情報を学んでいく。	・発達段階の違う乳幼児を連れながらの訓練は大変ではあるが、日常の危機管理には子どもの防災意識にもつながる大切な取組である。あらゆる場面を想定した訓練を行いながら、職員の防災意識も高め、園での安全管理を充実させていただきたい。 ・災害以外の保育中の事故、不審者対策等への職員の危機管理の向上が重要である。安心安全に生活できるよう対策を検討していただきたい。 ・保護者への引き渡し訓練も計画してみてもどうか。	B